鎌高新聞

発行　神奈川県立鎌倉高等学校　校長室

令和３年 12 月 20 日　　第８号

ヘボン博士の生涯　“Do　For　Others”

筆者は教員として進路指導する関係で自分のクラスの生徒が受験する大学、短大、専門学校を、数多く訪れてきました。訪問した学校の数は優に 100 校を超えると思います。いまは新型コロナウイルス感染の関係で学校説明会や学校見学がオンライン、オンデマンドで開催されたりすることが多く見かけられますが、以前は必ず学校見学、学校説明会に行って学校の雰囲気を感じ取ってきなさいと指導していました。

前回は「渋沢栄一と大学」について記しましたが、今日は明治学院大学の創立者ジェーズ・カーティス・ヘボンについて記します。話は飛びますがイタリアを訪れた某国の王女と、一人の新聞記者の１日の恋を描いた映画『ローマの休日』の主演女優オードリーヘップ・バーンと、明治学院大学の創立者ヘボンのスペルは同じ“Hepburn”です。カタカナ表記の違いはスペル重視なのか、発音重視なのかによる違いでしょうか？

明治学院大学には東京都港区の白金と横浜市戸塚区の横浜にキャンパスがあります。横浜キャンパスは本校より 12～13 キロのところに在り、毎年多くの生徒が入学している大学の一つです。また、明治学院大学は筆者の母校でもあります。現在はなくなりましたが、いまから 40 年前には白金キャンパスに２部（夜間）の法学、経済、文学、社会などの学部がありました。筆者は、この経済学部に通学していました。昼はサラリーマン、夜は学生という俗にいう勤労学生でした。白金キャンパスの正門から校舎に向かう坂道を登ると７号館(ヘボン館)があり、その前にヘボン博士の銅像があります。

ヘボン博士は 1815 年アメリカのペンシルバニアで生まれ、1911 年ニュージャージー州において 96 歳で亡くなられた宣教師、医師です。1862 年９月 14 日(文久２年８月 21 日)鶴見で起こった生麦事件で深手を負ったイギリス人２人を治療したのはヘボン博士です。ヘボン博士は 16 歳でプリンストン大学（米国長老教会が聖職者養成目的で設立）３年に編入し、翌年の秋に卒業した後。ペンシルバニア大学で医学を学び、1836 年に卒業しました。信仰心の厚い両親の下で育ったヘボン博士は、自らのミッションを海外への伝道と考え、その共鳴者であるクララ・メアリー・リートと結婚しました。

ヘボン夫妻は東洋伝道（当初の目的地はシャム、現タイ）のため、1841 年ボストン港を出港し、シンガポールに到着しました。伝道地をシャムから中国の厦門(アモイ)に変え、アヘン戦争が終結するのを待って 1843 年夏にシンガポールを立ち、澳門(マカオ)に上陸しました。1844 年に厦門に病院を立て伝道を開始しましたが、夫妻ともマラリアに罹患して伝道を断念しました。1845 年１月澳門を立ち、翌年３月ニューヨークに帰ってきました。

帰国後、ニューヨークで小さな医院を開業しました。ニューヨークでコレラが流行する中、中国での治療の経験が活き、医院は大きく発展しました。日米和親条約、日米通商条約、長崎港からの長老教会への日本宣教の急務勧告などがあり、そのような中、自らのミッションであるアジアへの伝道を忘れていなかったヘボン夫妻は、1859 年日本宣教を志願し、北米長老教会は申し出を承認しました。夫妻は年老いた父と息子を残し、病院や家財等を処分し、日本に向けて 4 月ニューヨークを出航しました。その時、ヘボン博士は既に 44 歳でした。

10 月、日本に到着したヘボン夫妻は、神奈川の成仏寺に居を構え、幕府からは布教は許されませんでしたが、医療行為については黙認されていました。ヘボン博士の医療技術は評判になり、成仏寺が手狭になって宗興寺に移りました。しかしながら幕府により施療所閉鎖の命令が出されました。同時期に、医療行為のみならず教育活動も開始していました。それがヘボン塾、明治学院大学、フェリス女学院大学につながっていきました。

1862 年 12 月、横浜居留地 39 番に新居を構え、医療活動と教育活動を本格的に行い、教育活動はヘボン塾の名で開始されます。このヘボン塾から後の首相高橋是清が育っていきます。1870 年、ヘボン塾に着任した教育宣教師メアリー・キダーは、女子教育を行うためにヘボン塾から独立してフェリス・セミナリー(現 フェリス女学院大学)を設立しました。

ヘボン博士がキリスト教布教のために英語と日本語の辞書の必要性を痛感し、1867 年『和英語林集成』を出版しました。これが日本における本格的な和英・英和辞書でした。この辞書の編纂するときに考えられたのが、ヘボン式ローマ字です。

ローマ字には、訓令式とヘボン式の 2 種類の書き方があります。訓令式ローマ字は、母音と子音を規則的に組み合わせたものです。これに対してヘボン式ローマ字は、アメリカ人のヘボン博士が、英語話者が読んだときに日本語の発音に近くなるように作ったものです。例えば、訓令式、日本式なら「たちつてと」は“ta　ti　tu　te　to”となり、ヘボン式なら“ta　chi　tsu　te　to”となります。

ヘボン博士は東京築地に移したヘボン塾を、教育宣教師ジョン・バラに委ねバラ学校と呼ばれるようになり、さらに築地大学校(後の東京一致英和学校)と改称していました。この頃、米国長老教会、アメリカ・オランダ改革教会、そしてスコットランド一致長老教会の三つの教団は、1877 年協力して築地に東京一致神学校を設立しました。

1886 年、東京一致英和学校とその予科である英和学校と、東京一致神学校の教育機関が合同して明治学院が創立されることになり、翌年には現在の東京白金に校地を定め、校舎や寄宿舎が立てられました。『破戒』、『夜明け前』の小説で有名な島崎藤村は、明治学院の 1 期生です。

“Do　For　Others”はヘボン博士が生涯貫いた精神として明治学院大学の教育理念となっています。筆者は卒業生ですが、キリスト教徒ではありません。ですが卒業後、教員になり、歳を重ねるうちに、この言葉“Do　For　Others”を考えるようになりました。特に還暦を過ぎ、残された時間の中で、自分が人のために何をすることができるのか、日々考えています。今日、何ができるのか？　Do　For　Others　！